

オシドリ・雲南省における繁殖の観察

王紫江・呉金亮・李宗強

雲南大学

訳 福井和二

オシドリは我が国東北北部のウスリー江、黒竜江、吉林省長白山地帯などで繁殖し、東南沿海一帯、長江中流域、東南各省の浙江省、福建省、広東省、台湾等で越冬する希少鳥類である。雲南省では一般的に冬鳥として見られる。元来、雲南省の一部の地域、たとえば、昭通、昆明、双江、禄豊、文山等で見られるが、その数は少なく、多くは3~5羽の小群、あるいは、他のカモ類と混群で単独行動している。毎年11月初旬に渡来し、3月末には去る。1979年筆者らはかつて雲南東部師宗県の五龍公社で一群(20羽以上)のオシドリを見つけた。これまでに観察記録されたオシドリでは最も数が多い一群である。過去3年の間さまざまな季節に観察を行って、このオシドリの群が終年この地に留まっていることを確認し、しかもその活動範囲が20~30km²の中にあり、なおかつ、繁殖をしていることがわかったので以下の如く報告する。

生息、営巣環境

オシドリの多くが生息しているのは、海拔900~1500mの低山丘陵地帯の溪流、沼沢、水田などで、時には常緑広葉樹林中で行動していることもある。調査地区でオシドリが比較的集中している場所は北から南へ向かって流れる南盤江の支流(五洛河)の谷間地帯で、五洛河の水源地域(龍潭)はオシドリが最も集中して生息している地域である。

龍潭周辺はヨシが密に繁茂し、また、野生のバショウ、クヌギ、クスノキ、ガジュマルなどで構成された常緑樹林中で、人の干渉が少なく、静穏な環境である。これらはオシドリの採食、繁殖など良好な生息場所である。我々が1980年、1981年に発見した2巣、さらに1982年、群れを発見した場所の1巣の営巣環境は、全て五洛河および龍潭付近の常緑広葉樹林内の樹洞中であつた。

営巣と産卵

巣内には樹皮、木屑の他、親鳥自身の羽毛少量を除く他、営巣行動を明確に見ることは出来なかつた。我々が観察した1巣は前年にムササビが営巣し、我々が捕獲した後にオシドリが営巣したもので、したがって、巣材は上述の他少量のムササビの毛が見られた。産卵は毎年3月末から4月いっぱい行われ、1巣卵数は6~10卵、白色で光沢があり、斑点のない卵円形である。1巣8卵の重量は48~52g、平均50g、大きさは46~59×39~44mm、平均53×40.8mmであつた。

抱卵と幼鳥

抱卵は全て雌単独で行う。抱卵初期には時折巣の近くの樹上に雄が止まっているのを見かけることがある。偶然、雄が巢内へ押し入るのを見かけたことがあるが、すぐさま、飛び出してきた。この時期の雄は単独で、近くの水域あるいは他の採食場所にいることが多い。我々はかつて抱卵途中のさまざまな段階のものを観察したが、途中で雄から受けた干渉の影響は不明確だった。1981年5月7日、抱卵中のオシドリが人の気配に驚き飛び出していった。巣には2卵があり、その後再び巣に戻り抱卵を継続した。5月8日、午後5時に親鳥は巣を出て、6時には戻り、抱卵を継続した。抱卵後期は1日の内1回は巣を離れた。5月10日6羽の雛が孵化し、親鳥について巣を飛び出し、200mほど離れた田圃で採食していた。雛は拳大の大きさで全身絨毛に被われ、背部の羽毛は黄褐色、腹部の羽毛は乳黄色、頬と喉はやや深みを帯びた黄色で、充分活動的であつた。